

## 第5回湘南中国語スピーチコンテスト 高校1年生2名出場 中国語学習の成果を披露

高校の部 奨励賞 内田航平 君（1年D組） 敢闘賞 宮下那岐 君（1年E組）



3月8日、藤沢市公民館等Fプレイスホールにて、第5回湘南中国語スピーチコンテストが開催されました。このコンテストは、湘南中国語スピーチコンテスト実行委員会が主催し、藤沢市、湘南日本中国友好協会、中国駐日大使館、藤沢商工会議所、聶耳記念碑保存会ほかが共催・後援・協賛として関わり、行政・産業・教育に関わる多くの方々の協力により実施されています。（写真1 表彰式後の出場者記念撮影）

本校からは、内田航平君（1D）と宮下那岐君（1E）が出場しました（出場資格は藤沢市在住または在学中、慶應藤沢、藤沢総合、横浜国際の高校生5名と大学生2名〔慶應義塾大学〕が参加）。

開会では、相澤光春実行委員会会長から「藤沢市の友好都市である昆明市で日本語学習者スピーチコンテストが開催されていることを受け、藤沢市でも中国語学習者によるスピーチコンテストを開催する運びとなり、今回で5回目となります」と挨拶がありました。続いて、来賓の鈴木恒夫市長、安藤好幸藤沢市議会副議長、柳田秀憲湘南日中友好協会会長から、出場者へエールが寄せられました。さらに、中国駐日大使館の杜柯偉公使参事官からは「昆明市との交流活動の一つとして、本日のスピーチは今後の日中関係にとって意義のあるものです。中国語の発音は四声が難しいと思いますが、頑張ってください」と励ましの言葉が贈られました。

いよいよ共通テーマ「わたしと中国語」のスピーチが始まりました。本校の2名は中国語で懸命にスピーチを行い、約50

名の市民の参観者から、出場者一人ひとりに温かい拍手が送られました。

結果は、3番目に登壇した宮下那岐君が敢闘賞を受賞しました。スピーチでは、「将来を見据え、世界で2番目に多く使用されている言語である中国語を学ぼうと思ったこと。中国語を学ぶ中で、日本の漢字と中国語の漢字には違いがある一方で、『手続き』『取り消し』といった日本語から中国語に取り入れられた言葉もあり、似た漢字に触れることの面白さから興味を持って学ぶことができたこと。漢字の用法からも両国の文化が影響し合っていることが感じられ、今後も簡単な単語から覚え、さらに話せるようになりたい」という思いが語られました。（写真2 宮下君スピーチ姿）

また、高校の部の最後に登壇した内田航平君が奨励賞を受賞しました（写真3 内田君スピーチ姿）。スピーチでは、「中国語の授業案内を読んだ際、日本語や英語に加えて中国語も学んでみようと思ったこと。また、おばが中国に移り住んでいることから中国を身近に感じ、学習を決意したこと。さらに、学ぶ中で特に興味を持ったのが中国の高速鉄道であり、世界各国の技術が使われ、5000キロ以上を走る路線もあること、その長距離を数日かけて走る列車に魅力とロマンを感じたこと。そして将来、高速鉄道に乗って中国各地を旅行したい」という内容が語られました。

武田勝年審査委員長の講評では「勇気を持って中国語スピーチに挑戦した皆さんに感謝します。高校1・2年生で、学習開始から1～2年という短い期間で本日のような発表ができたことは素晴らしいことです。中には1年未満の方もいます。課題は四声ですが、今後も中国語に親しみ、中国の文化を知り、次世代へとつなげてほしい。日中の架け橋として、これからの友好のために学び続けてほしい」とのお話がありました。

終了後、半年余りの取り組みを振り返ると、中国語担当の中村先生のご指導のもと、週1時間という限られた授業時間の中で学んだ内容をスピーチという形にまとめ上げた2名の努力に、深い感銘を受けました。特に、この2週間ほどの猛練習に励む姿や、本番での堂々とした発表には大いに感心させられました。このような晴れの舞台の機会を用意して下さった関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。